

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年5月22日（金） 18:00～18:25

場所：内閣府

【冒頭発言】

19日（火）、4日目の首席交渉官会合はキャンセルとなった。台風が直撃した日とその翌日は交通障害でホテル間の行き来が出来ずワーキンググループが開催できない状況が続き、進捗が遅かったのでキャンセルとなったようだ。

20日（水）、5日目の首席交渉官会合は、国有企業と知的財産を行った。国有企業は、ワーキンググループから、首席交渉官の細かいガイダンスがなくとも、ワーキングのレベルで作業を続けていけば、なんとか最後まで整理できるかもしれないという報告があった。当然、終わっているわけではないが、調整が順調に続いているということ。

知的財産は月曜日に引き続いて2回目。月曜日は、比較的結論が出せそうなものを、水曜日はもう少し難易度が高いものを扱った。論点は、大項目では3つ程度だが、細かく分けると結構な数になる。首席交渉官からも発破をかけたが、知的財産で難易度が高い課題になると、やはり、現場の交渉官だけでは判断できず、本国と相談しながらやっているようだ。日本もそうだが、本国と相談して窓口には伝えるが、知的財産のように幅が広いと様々な役所に相談しなければならず、そういうところは必ずしもすぐに意思決定できるわけではないので、中々返事が来ないということでみな苦労しているようだ。知的財産は、明日23日（土）もやる。

20日（水）は、鶴岡首席交渉官は、日本を入れて5か国での少数国会合を行っている。

21日（木）、6日目は、原産地規則と物品のテキストの議論を時間をかけて行った。原産地規則のテキストで残っている論点は、関税交渉の結果により書き振りが変わるので、待ちの状態。それ以外のものはもうすぐクローズできそうなところまで来ているようだ。品目別の調整はかなり残っているが、残っているものの大半が、市場アクセスの方向性が出てこないと原産地の議論に入れないうことなので、原産地としてもめているわけではないが、かなりの数が残っていて、如何ともし難いという報告があった。

物品貿易のテキストは、細かい技術的な話が、ワーキンググループで多く出てきたという感じである。いずれも、まさに最後の方になると詰めないといけないう論点が次々に出てくるという、この手の交渉にはありがちなパターンであり、イメージを言えば、譲許表をまとめるときに、その様式をどうするかといった類の

話である。そういう話がたくさん出てきて、さんざん議論した末に、その前に市場アクセスの中身の話を詰めるのが先だという意見が出たりした。ただ、そういった細かい調整は、しないといけないものもあるが、様式のような話は、合意後、テキストを完成させて署名するまでに調整してもいい。本当に合意前に詰めないといけない論点は何か、市場アクセスのワーキンググループでよく整理し、グアムにいる間に報告しろという話になった。

鶴岡首席交渉官は、21日に1か国の首席とバイの会談を行った。

また、この日の夕方、大江首席交渉官代理がグアム入りし、早速、米国のベッター首席農業交渉官とバイの協議を始めた。今日も行っている。アメリカ以外の国ともやっているが、詳しい報告はまだ受けていない。

本日22日の報告はまだ来ていないが、繊維を議論する予定となっている。

明日以降の予定は、最初の予定表は意味をなさなくなっており、毎回毎回翌日に何をするかを含めて調整をしながらやっている。

大臣が今朝の会見で述べたが、25日までの予定だった首席交渉官会合は、もう少し伸ばそうという話になっている。28日頃までやろうかという話になっているが、それより早く終わる可能性もあるし、伸びる可能性もないわけではない。早くなる可能性があるのは、各国の国内調整がこの時期大事であり、首席交渉官やワーキンググループで議論しても、国内での調整がどうしても必要であり、グアムで残って議論するのがいいのか、一度宿題として持ち帰った方がいいのか、来週、その辺りを見極めていつまでやるか決めるだろう。首席交渉官が残っている間は、関係の分科会交渉官も残る。

【質疑応答】

(記者) 大臣は、今朝の会見で28日より早いかもしれないと言っていたが、遅くなる可能性もあるのか。

(澁谷審議官) やって見ないと分からない。

(記者) 国有企業は、首席交渉官のガイダンスがなくとも何とかかなりそういう話があったが、例外のリストも含めてか。

(審議官) それも含めて分科会で丁寧な議論をしているのではないか。テキストも細かい論点は残っているが、いずれ収束するだろう。閣僚会合でも議論することになると思うが、国有企業については、なるべく事務方で整理をし、閣僚会合では、閣僚同士で交渉するというより、事務方の整理を踏まえて閣僚が最終判断するというのがベストだということ。もちろん、結果として論点が残り、閣僚の協議にゆだねるということに最終的になるかもしれないが。

(記者) 大江・ベッター協議の結果は。

(審議官) まだ聞いていない。

(記者) 知的財産は、土曜日に閣僚案件を議論するのか。

(審議官) そこはわからない。基本的に首席交渉官から何を報告せよ、というよりも、分科会の議長国から進捗状況を聞くという感じで、閣僚マターもグアムにいる間に議題にはなると思うが、それが土曜日かどうかはわからない。

(記者) 本国の返事が中々出てこないという話だったが、期間中にその辺も含めて整理したいという意気込みはあるのか。

(審議官) なんとか整理したいという気持ちはかなりある。来週まで首席交渉官が残ってやりましょうということは、事務レベルで調整できそうなものはグアムにいる間になるべく処理しようという意気込みを共有しているということだと思う。

(記者) 各国とも期間中に調整を続けないといけない状況か。

(審議官) グアムであまり宿題を残さないようにしろという指示が首席交渉官から各分科会へ飛んでいるので、宿題として残すのではなくて、この場で解決できるものは解決しようということなので、各国とも本国との調整を精力的にやっているということではないか。

(記者) グアムで閣僚会合を行わないという判断はどのような流れでできたのか。

(審議官) 食事会でそのような議論がされたという記事があったが、閣僚会合をどうするかという意思決定を首席交渉官同士でするわけではない。各国の首席が状況を踏まえて、本国の大臣と相談し、そのうえで、平場の議論というよりは、首席同士のバイ協議などで感触をお互いに確認しあっているのではないか。どの国がということではなく、やはりTPA法案がまだ成立していないという状況の中で、今、閣僚会合を開いても中々合意を得るのは難しいということ、多くの国が思っているということではないか。

(記者) 次回の閣僚会合は、TPAが下院も通過しないと開かれないのか。

(審議官) アメリカの議会がどんな状況になるか分からないが、現時点では上院もいつ通過するか分からないので、もう少し様子を見ないと分からない。

(記者) 大臣は、下院での成立のメドが立った場合とも言っていたが、どのよう

な状況か。

(審議官) 他国の法案についてとやかく言うのもなんだが、あえて申し上げれば、法案の成立とは、上院と下院を通ることだが、上院と下院で可決した中身が違っていれば両院協議会で調整をする作業がさらに発生する。上院と下院との間の事前調整がよくなされていて、下院で通れば間をおかずに最終成立という状況なのか、あるいは、下院の可決見込みはあるが、上院と下院の内容に重大な相違があって、両院協議会にかなりの時間がかかりそうな状況なのか、その時その時の状況によるのではないか。

(記者) 閣僚会合はTPA次第ということもあるので、閣僚会合はアメリカで開催するのか。

(審議官) それは分からない。TPAだけではなく、中身の詰まり具合にもよる。ただ、詰めようとする、TPA法案を横目で見ながらどのようにカードを切るかという話なので、密接に関連する。いずれにしても、いつ、どこで、というのはこれからの話。

(記者) 閣僚会合を開けるかどうかの要素として、TPAと中身という話だが、例えば、カナダの関税交渉がアメリカとうまくいっていないという部分もネックになるのか。

(審議官) どの国がどうとは言わないが、市場アクセスでやや遅れ気味と言われている国もグアムでは、一生懸命やっているようだ。

(以上)